

# これで勝負!

## 大消費地にいどむ

### 首都圏農業

133

## 本庄市 A-GREEN

【埼玉】本庄市のA-GREEN

代表の倉野内浩さん(54)と妻の直子さん(47)夫妻は、約18・5畝の畑で35種類の野菜を栽培している。

市場や農協に出荷してきたが、規格外野菜のロスの多さに疑問を感じた倉野内さん夫妻は、野菜の販路や品種の変更について模索していた。そんなとき、仲卸業者との関係で出荷先を都内のスーパーへ広げようとした功。多少傷があっても味には変わりがないため、訳アリ品として販売でき

た。また、飲食店向けにSNSで映える色鮮やかで

珍しい野菜の栽培や、核家族向けの宅配なども始めた。今では出荷ロスはほとんどないという。

これまで、白ナス、オレンジのカリフラワー、赤いジャガイモなどを栽培。今年には赤いトウモロコシにチャレンジしている。「自分たちに合った方法で、量より品質重視

# 多品種の野菜、品質重視



① 倉野内さん夫妻  
② 倉野内さんが栽培する赤いじゃがいも



「苦手だった野菜が食べられたという声や、倉野内さんのカボチャが一番おいしいという声がありがいになる」と浩さん。野菜づくりへの思いが伝わったことを実感したという。倉野内さん夫妻は「消費者のニーズや気候の変化に対応した栽培に力を入れ、色鮮やかな野菜づくりを通して農業の楽しさを届けていきたい」と今後の思いを楽しそらに語った。

の栽培をしたい」というで見ていると話す。浩さん。直子さんは「カブ、おもしろい野菜を配り、商品づくりに気を配り、商品に傷が付かないよう風よ

けや袋がけをするなど、ひと手間を加える。カボチャなら変色を防ぐため、下に皿を置いて栽培する。珍しい野菜は食べ方のラベルを付けて販売し、客が購入しやすいよう心がけている。